

エコアクション21

環境経営レポート No. 10



発行日：2021 年5月6日

活動期間：2020 年1月1日～2020 年12月31日



株式会社 丸福運送

【 目 次 】

目 次	1
1. 組織の概要	2
(1) 会社概要	2
(2) 登録対象範囲	2
(3) 実施体制	3
2. 環境経営方針	4
3. 環境経営目標	5～7
4. 環境経営計画	8～9
5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	10～12
6. 環境経営目標の実績と判定	13～19
7. 環境経営計画の取組に対する評価と今後の取組内容	20～21
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	22
9. 代表者による全体評価と見直し結果	23

1. 組織の概要

(1) 会社概要

事業者名 株式会社 丸福運送
 代表者名 瀬尾 茂数
 所在地 〒814-0171 福岡県福岡市早良区野芥4-45-21
 法人設立年月日 昭和41年11月5日
 資本金 1000万円
 主要業務内容 一般貨物運送、引越(一般家庭、事業所)、精密機械搬入搬出、
 物流資材販売、PCカスタマイズ、産業廃棄物収集運搬

事業規模

項目	単位	2017年	2018年	2019年	2020年
売上高	百万円	882	854	802	715
従業員数	人	108	109	95	96
床面積	m ²	6,306	6,306	6,306	6,306
車両数	台	90	88	89	86

(2) 登録対象範囲

■組織 全組織

- ・本社 : 福岡県福岡市早良区野芥4-45-21
- ・福岡支店(福岡営業所) : 福岡県福岡市早良区東入部3-1-8
- ・福岡支店(東倉庫) : 福岡県糟屋郡粕屋町仲原3-7-38
- ・南支店(南営業所) : 福岡県朝倉郡筑前町朝日1148-1

■活動

事業活動の内容 一般貨物運送事業、引越(一般家庭、事業所)、梱包、精密機械搬出
 搬入、重量物据付運搬、物流資材販売、冷凍チルド輸送、PCカスタ
 マイズ、倉庫業、保管・管理・流通加工、産業廃棄物収集運搬業

許可番号等

一般貨物自動車運送事業 福陸自第4937号

倉庫業 福運航第931号

産業廃棄物収集運搬業 許可年月日 有効年月日

福岡県 04000043607 平成30年10月7日 平成35年10月6日

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等、ゴムくず、木くず

佐賀県 04103043607 平成30年11月7日 平成35年11月6日

ゴムくず並びに廃プラスチック類、金属くず及びガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず

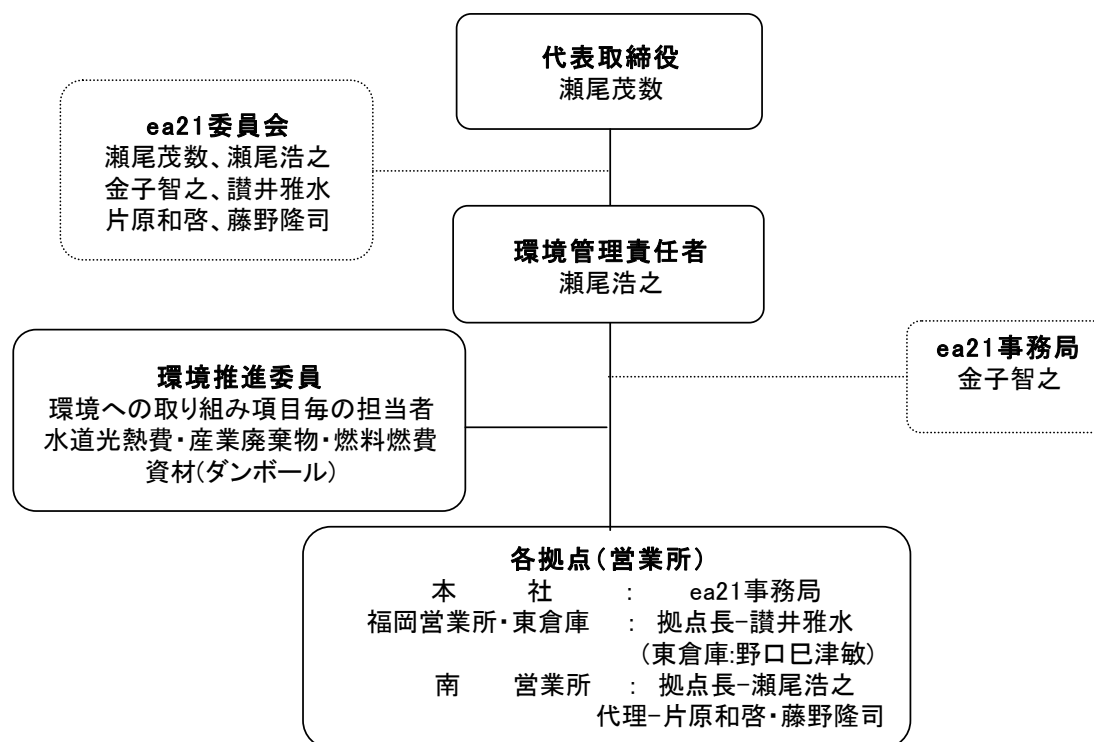
登録車両 バン(箱車) 32台

2020年度 産業廃棄物収集運搬実績 23.31t

環境管理責任者 物流部 部長 : 瀬尾 浩之
 EA-21 事務局 総務部 課長 : 金子 智之
 連絡先(事務局) TEL : 092-801-1155
 FAX : 092-864-1255
 E-mail : t-kaneko@marufukuunso.co.jp
 URL : <http://www.buturyu.info/>

活動年度 1月～12月

(3) 实施体制



所属	役割・責任・権限
代表取締役	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限を持つ
	②経営における課題とチャンスを明確にする
	③環境方針を策定し従業員全員に周知する
	④ea21全体の取り組み状況に関し、評価・見直しを実施する
	⑤環境管理責任者、環境委員などを任命する
	⑥環境整備に対する経営資源投入について意志決定する
環境管理責任者	①ea21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築実行し環境面の実績を向上させる
	②上記の結果を最高責任者へ報告する
	③ea21の文書類の承認をする
	④環境委員会の委員長としてea21全般の舵取りを行い、実行を推進する
	⑤環境目標、環境活動計画を作成し、社員全員に周知する
環境推進委員	①環境経営システムの文書化をとりまとめる
	②環境への負荷の自己チェックを確認し取りまとめる
	③環境への取り組みの自己チェックを確認し取りまとめる
	④環境管理責任者を補佐し問題点の審議と解決策を立案する
拠点長	①自拠点の環境目標、環境活動計画を拠点全員に周知する
	②自拠点の環境目標、環境活動計画の実績把握を行う
	③自拠点の教育・訓練を実施する
	④社内外の環境情報の収集と伝達を行う
	⑤自拠点の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する
ea21委員会	①毎月の拠点長会議後に開催し、環境目標の達成状況及び環境活動計画の実行状況を審議する
事務局	①ea21文書及び記録類の作成・維持・管理を行う
	②各拠点内でのサポートを行う

2. 環境経営方針

環 境 経 営 理 念

株式会社 丸福運送は、一般貨物自動車運送事業・倉庫業を通じ、循環型社会の形成に貢献します。環境問題に積極的に取り組み社会に貢献する活動を推進し、地域社会の発展に寄与するとともに、社会からいっそう信頼される企業を目指します。

環 境 経 営 方 針

1. 事業活動全ての業務において、省エネルギー・省資源、廃棄物削減・リサイクル、節水、地域とのコミュニティ推進に努めます。
2. 自動車からの排気ガスによる地球温暖化、大気汚染を防止する為、エコドライブの実践、低公害車の導入を推進します。
3. 引越業務や輸送業務、精密機器搬入出業務で使用する資材のリユース化を推進し、新たに購入する資材の削減に努めます。
4. 引越業務や輸送業務、PCカスタマイズ業務で排出される廃棄物（梱包材）の再利用とリサイクルに努めます。
5. 環境目標を設定して、定期的に見直すことにより、環境経営・環境保全活動の継続的な改善に努めます。
6. 関係する環境法規及びその他の要求事項を遵守し、環境負荷の軽減、環境汚染の防止に努めます。
7. 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知するとともに、従業員の意識向上を図り、地域の環境保全に積極的に貢献します。
8. この方針を、広く社外に公開します。

制定：2011年1月1日

改訂：2020年1月1日

株式会社 丸 福 運 送

代表取締役

瀬尾 茂 敬

3. 環境経営目標

当社の環境目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定いたしました。

目標設定の基準は、2018年度のデータに2017年7月に合併しました「株式会社 明和運輸」の車両の2018年度燃料消費量〔軽油〕データを南支店へ加算し、本社・福岡支店の冷凍冷蔵車両分〔軽油〕を南支店へ移動したものを使用しております。

①本社・福岡支店の2018年度軽油	351,607.33(L)
南支店へ移動した冷蔵冷凍冷蔵車両分	▲24,403.66(L)
◎本社・福岡支店の軽油基準値	327,203.67(L)
②南支店の2018年度軽油	169,107.14(L)
本社・福岡支店から移動した冷凍冷蔵車両分	24,403.66(L)
株式会社明和運輸のチルド車加算分	91,300.60(L)
◎南支店の軽油基準値	284,811.40(L)
◎全社の軽油基準値	612,015.07(L)

【全 社】

目標・活動項目(単位)	2018年度値 (基準値)	2019年度	2020年度	2021年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	1,692,400	1,675,473	1,658,549	1,641,625
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	25,159	24,907	24,656	24,404
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	612,015	605,895	599,775	593,655
電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	111,863	110,744	109,626	108,507
灯油使用量の削減(L)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	1,301	1,287	1,274	1,261
2.総排水量の削減(m ³)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	222	219.78	217.56	215.34
3.廃棄物総排出量の削減(t)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	161.328	159.715	158.101	156.488
4.グリーン購入使用品目の積極 購入・使用	基準値	購入使用維持	購入使用維持	購入使用維持
	積極購入使用	積極購入使用	積極購入使用	積極購入使用
5.ガソリン・軽油の燃費向上	ガソリン 10.02km/ℓ	ガソリン 10.12km/ℓ	ガソリン 10.22km/ℓ	ガソリン 10.32km/ℓ
	軽油 5.10km/ℓ	軽油 5.15km/ℓ	軽油 5.20km/ℓ	軽油 5.25km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO₂排出係数（2017年度調整後排出係数）

0.463kg-CO₂/kWhとしています。

※二酸化炭素排出量の削減値は都市ガスを除いたものです。

※総排水量と水使用量について

南支店（南営業所）の水道はすべて井戸水で、使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店（福岡営業所、東倉庫）の値としています。また、福岡営業所は洗車場と倉庫内トイレが井戸水を使用していますが、井戸水使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

【本社・福岡支店】

目標・活動項目(単位)	2018年度値 (基準値)	2019年度	2020年度	2021年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	918,528	909,338	900,155	890,965
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 13,923	1%削減 13,784	2%削減 13,645	3%削減 13,504
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 327,204	1%削減 323,931	2%削減 320,660	3%削減 317,387
電気使用量の削減 (総電気使用)(kWh)	基準値 83,803	1%削減 82,965	2%削減 82,127	3%削減 81,289
灯油使用量の削減(L)	基準値 1,301	1%削減 1,287	2%削減 1,274	3%削減 1,261
2.総排水量の削減(m ³)	基準値 222	1%削減 219.78	2%削減 217.56	3%削減 215.34
3.廃棄物総排出量の削減(t)	基準値 62.883	1%削減 62.249	2%削減 61.626	3%削減 60.998
4.ダンボール使用量の削減(t)	基準値 17.44	1%削減 17.266	2%削減 17.091	3%削減 16.917
5.低公害車の100%導入の維持【運送用車両】	基準値 100%	100%維持 100%	100%維持 100%	100%維持 100%

目標・活動項目(単位)	2018年度値 (基準値)	2019年度	2020年度	2021年度
6-1.ガソリンの燃費向上	基準値 8.36km/ℓ	1%向上 8.44km/ℓ	2%向上 8.53km/ℓ	3%向上 8.61km/ℓ
営業車	基準値 10.03km/ℓ	1%向上 10.13km/ℓ	2%向上 10.23km/ℓ	3%向上 10.33km/ℓ
自家用車	基準値 8.02km/ℓ	1%向上 8.10km/ℓ	2%向上 8.18km/ℓ	3%向上 8.26km/ℓ
6-2.軽油の燃費向上	基準値 5.58km/ℓ	1%向上 5.64km/ℓ	2%向上 5.69km/ℓ	3%向上 5.75km/ℓ
大型車	基準値 3.25km/ℓ	1%向上 3.28km/ℓ	2%向上 3.31km/ℓ	3%向上 3.35km/ℓ
中小型車	基準値 6.19km/ℓ	1%向上 6.25km/ℓ	2%向上 6.31km/ℓ	3%向上 6.37km/ℓ
コンビニ車	基準値 6.22km/ℓ	1%向上 6.28km/ℓ	2%向上 6.34km/ℓ	3%向上 6.41km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO₂排出係数（2017年度調整後排出係数）
0.463kg-CO₂/kWhとしています。

※二酸化炭素排出量の削減値は都市ガスを除いたものです。

【南支店】

目標・活動項目(単位)	2018年度値 (基準値)	2019年度	2020年度	2021年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	773,872	766,136	758,395	750,656
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 11,236	1%削減 11,124	2%削減 11,011	3%削減 10,899
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 284,811	1%削減 281,964	2%削減 279,115	3%削減 276,267
電気使用量の削減 (総電気使用)(kWh)	基準値 28,060	1%削減 27,779	2%削減 27,500	3%削減 27,218
灯油使用量の削減(L)	基準値 0	1%削減 0	2%削減 0	3%削減 0
2.総排水量の削減(m ³)	基準値 0	1%削減 0.00	2%削減 0.00	3%削減 0.00
3.廃棄物総排出量の削減(t)	基準値 98.450	1%削減 97.472	2%削減 96.480	3%削減 95.497
4.エコ・地域活動項目の継続と発展	基準値 項目の継続	項目の継続 継続と発展	項目の継続 継続と発展	項目の継続 継続と発展

目標・活動項目(単位)	2018年度値 (基準値)	2019年度	2020年度	2021年度
5-1.ガソリンの燃費向上	基準値 11.91km/ℓ	1%向上 12.03km/ℓ	2%向上 12.15km/ℓ	3%向上 12.27km/ℓ
営業車	基準値 11.59km/ℓ	1%向上 11.71km/ℓ	2%向上 11.82km/ℓ	3%向上 11.94km/ℓ
自家用車	基準値 13.65km/ℓ	1%向上 13.79km/ℓ	2%向上 13.92km/ℓ	3%向上 14.06km/ℓ
5-2.軽油の燃費向上	基準値 4.55km/ℓ	1%向上 4.60km/ℓ	2%向上 4.64km/ℓ	3%向上 4.69km/ℓ
大型車	基準値 3.00km/ℓ	1%向上 3.03km/ℓ	2%向上 3.06km/ℓ	3%向上 3.09km/ℓ
中小型車	基準値 7.04km/ℓ	1%向上 7.11km/ℓ	2%向上 7.18km/ℓ	3%向上 7.25km/ℓ
冷凍冷蔵車	基準値 3.38km/ℓ	1%向上 3.41km/ℓ	2%向上 3.45km/ℓ	3%向上 3.48km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO₂ 排出係数（2017 年度調整後排出係数）

0.463kg-CO₂/kWh としています。

※二酸化炭素排出量の削減値は都市ガスを除いたものです。

4. 環境経営計画

【全社共通】

No.	環境経営目標	実施事項	実施部門 責任者
1	電気使用量の削減 (CO2の削減) 《目標》 総電気使用量・・・ 2018年度比 2%削減	①エアコン設定温度の順守 ②休憩時間、不使用時の消灯 ③コピー機の使用頻度を減らす	全拠点 拠点長 本社は事務局
2	燃料使用量の削減 (CO2の削減) 《目標》 ①車両燃料・・・2018年度比2% 削減 (ガソリン・軽油の削減) ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》 軽油:5.20km/L ガソリン:10.22km/L	①運転指導(デジタコ等)による走行距離あたり 燃料消費効率の向上(エコドライブ) ②車両整備による走行距離あたり燃料消費効率 の向上(エコドライブ) ③タイヤの空気圧を測る ④タイヤのローテーションを行う	全拠点 拠点長 本社を除く
3	灯油使用量の削減 《目標》 2018年度比 2%削減	① 冬期時室内温度を守る ② 事務所の扉や窓が開けっ放しにしない ③ ストープの利用者が見あたらない時は消火する	全拠点 拠点長 本社は事務局
4	廃棄物排出量の削減 《目標》産業廃棄物量削減・・・2018年度比2%削減	①引越業務、輸送業務におけるプラスチックダンボールの利用	福岡営業所 福岡拠点長
5	一般廃棄物排出量の削減	①廃棄物の分別の徹底 ②リユース、リサイクル推進活動の展開 ③排出量の秤量管理	全拠点 拠点長 本社は事務局
6	総排水量の削減 《目標》 2018年度比2%削減	①洗車ルールの周知徹底による節水意識の浸透 ②ストッパー付き洗車ノズル使用の継続 ③効率の良い洗車手順の調査・指導	全拠点 拠点長 本社は事務局
7	グリーン購入品目の積極購入 《目標》 積極的に購入・使用する	①購入する物品は積極的にグリーン購入品目を発注する ②積極的にグリーン購入品目を使用する	全拠点 購入担当者

【各拠点】

No.	環境経営目標	実施事項	実施部門 責任者
K1	低公害車100%導入の維持 《目標》 100%導入維持	①低公害車の100%導入【運送用車両】	本社 本社購入担当者
K2	ダンボール使用量の削減 《目標》 2018年度より2%削減	①引越業務におけるダンボールの再利用化	福岡営業所 福岡拠点長
K3	エコ・地域活動項目の継続と発展 《目標》 エコ・地域活動を継続・発展	①グリーンカーテン・営業所周辺の清掃活動を継続して行う。 ②エコロジー活動や地域に貢献できる活動を模索し活動を発展させる	南営業所 南拠点長
K4	【本社・福岡支店】 ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》 軽油:5.69km/L ガソリン:8.53km/L 《目標》車種別 軽油[km/L] ガソリン[km/L] 大型車:3.31 営業車:10.23 小中型:6.31 自家用:8.18 コンビニ :6.34	全社共通の燃料使用量の削減に同じ	福岡営業所 福岡拠点長
K5	【南支店】 ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》 軽油:4.64km/L ガソリン:12.15km/L 《目標》車種別 軽油[km/L] ガソリン[km/L] 大型車:3.06 営業車:11.82 小中型:7.18 自家用:13.92 冷凍冷蔵 :3.45	全社共通の燃料使用量の削減に同じ	南営業所 南拠点長

5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

当社として、本社・福岡支店及び南支店の事業活動における環境への負荷を低減するために、以下の活動を実施しました。なお、その達成状況や活動の実施状況を毎月のE A-21委員会にてフォローしております。

(1) 電気使用量の削減

当社のCO2排出量としては3番目に多い電気(2.78%)使用量を削減することとしました。

- ① 休憩時間の消灯や未使用時の電源OFFの実施と節電シールの表示
- ② 温度計の設置
- ③ 空調使用時の温度管理の徹底(夏季: 26℃~28℃、冬期: 20℃~22℃)
- ④ 節電管理表への記入による確認
- ⑤ コピー機の使用頻度を減らす

(2) 燃料使用量の削減・ガソリン軽油の燃費向上

当社のCO2排出量としては1番目に多い軽油(93.55%)2番目に多いガソリン(3.39%)使用量を削減することが当社として最大の効果があると考え下記のような対策を実施しております。

- ① 無駄なアイドリングのストップ(荷物積み込み及び荷降ろし時にエンジンをストップ)
- ② 急加速、急減速、不要な高回転、速度超過を行わない
- ③ 運行管理者より運転者への指導
- ④ 日常点検の実施(整備管理者による指導)
- ⑤ 整備管理者は定期的に車輛のタイヤの状態を確認する
- ⑥ 整備管理者はタイヤのローテーションをタイヤや運行の状況に応じて実施する

(3) 灯油使用量の削減

当社のCO2排出量比率は低いですが、使用量が多いため使用量を削減することとしました。

- ① 冬期時室内温度を守る
- ② 事務所の扉や窓が開けっ放しにしない
- ③ ストープの利用者が見あたらない時は消火する

(4) 産業廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量の中で、引越や運送の梱包資材として使うダンボールの排出量を削減するための対策を実施しています。

- ① 営業担当者はお客様にプラスチックダンボールの利用を勧める
- ② お客様のプラスチックダンボール利用向上を図る施策を拠点内で検討、実施する
- ③ 自社内で使用するダンボールは、プラスチックダンボールや買い物がことする

(5) 一般廃棄物排出量の削減

一般廃棄物はリサイクル・リユースできるものも多く、これらを少しでも分別して再資源化できるような対策を実施しています。

- ① 一般廃棄物は、分別札に応じた分別がされている
- ② ミスコピーは再利用箱に入れる
- ③ 電子メール・掲示板・回覧・スキャナ・ファイルサーバーを利用し、印刷を減らす。また、会議資料等の配布物を少なくなる
- ④ 排出量は、市販されている簡易な秤で計量する

(6) 総排水量の削減

当社の水資源の使用は主に車輛の洗車です。水を出しっぱなしにしないように、水を使う時間を短くするような対策を実施しています。

- ① 水を出っぱなしにせず、こまめに水を止め使用する
- ② 洗車記録書に洗車実施者と洗車時間を記入する（整備管理者への報告）
- ③ ストッパー付き洗車ノズルの使用の継続
- ④ 効率の良い洗車手順の調査・指導

(7) グリーン購入使用品目の積極購入・使用

当社のグリーン購入品の購入ルールを作り、購入担当者への指導とグリーン購入品の拡大への活動を展開しております。購入だけでなく使用品目も対象としています。

- ① 比較的多く購入や使用している物で、グリーン製品に替わる物を調査し、購入担当者や使用者へ周知指導する。
- ② トラックの修理部品や消耗品等のエコマーク商品の積極的な購入と使用
- ③ 個人で購入・使用する物もなるべくグリーン購入品やエコマーク付きを選択するよう従業員へお願いする。

(8) ダンボール使用量の削減

当社は引越業務を営んでいます。引越業務で使用するダンボールをリユースし、新しいダンボールの使用量を削減する対策を実施しています。

- ① 営業担当者はお客様に再利用ダンボールの利用を勧める
- ② お客様の利用向上を図る施策を拠点内で検討、実施する
- ③ 使用済みダンボールの回収率を上げる工夫を拠点内で検討、実施する

(9) 低公害車100%導入の維持

当社は一般貨物自動車運送事業を営んでおり、運送業務で使用する車輛を低公害車へ替えていくことは必須だと考えます。

- ① 購入担当者は、低公害車の100%導入を維持する

(10) エコロジー・地域活動項目の継続と発展

当社は、身近なエコロジー活動や地域に貢献した参加できる活動を推進します。この活動から次への発展を期待します。

- ① これまでのエコ活動，地域に貢献・参加できる活動を継続する。
- ② エコ活動，地域に貢献・参加できる活動を調査し、手順や実施方法を検討し、実施する。
- ③ 当社本社近くの小学生を対象に、「トラックで運ぶ」をテーマとした物流を身近に感じてもらおう催しを開催した。

(11) その他

本社・福岡支店及び南支店は前年度から引き続き、計画に基づいて活動を実施しております。

- ① 教育訓練の実施
 - 従業員への教育
朝礼や安全会議でのエコアクション21への取り組みについての説明、社長及び各拠点長による指導・掲示物・指標などの掲示による意識向上を実施してきました。
- ② 毎年取組み状況チェック
- ③ E A-21 システムの確実な実施
- ④ その他
 - 当社内出入り業者に対して、アイドリングストップのお願い要請と事務所入口に「アイドリングストップ」の表示を実施しています。

- この環境経営レポートを、本社、福岡営業所及び南営業所に常備し、外部に公開しています。

☆【「トラックで運ぶ」をテーマに子供たちへ物流を身近に感じてもらうように】

令和2年11月7日（土）に丸福運送本社近くの小学生4人とその保護者に集まって頂き、「トラックで運ぶ」をテーマに当社瀬尾部長の講座と実際のトラックに触れて、物流を身近にもらせるような催しを開催しました。

講座や質疑応答の項目は下記のとおりでした。

- ①トラックで運んでいるもの
- ②いろいろな輸送手段
- ③トラック馬力は？
- ④運送会社の仕事は？
- ⑤物を壊さないように運ぶ工夫
- ⑥トラックを動かす上での工夫
- ⑦トラックを買うときはどうするの？
- ⑧荷物を積む・運ぶ順番はあるの？
- ⑨燃費良く届けるためのルートを考えるのはどうするの？
- ⑩運転手さんが身体を痛めないように工夫していることは？
- ⑪道路状況によって到着が遅れる場合は？

2時間ほどの内容でしたが、少人数での開催のためか終始ほのぼのとした雰囲気でした。

普段、トラックに触れることはないので実際のトラックに興味津々で活発にお話ししてくれました。

注文した物が手元へ届くには「物流」があり、身近けどよく知らない。をもっと知ってもらえたと感じました。今後も機会があれば色々なテーマで近所の子供たちを対象に開催したいと思います。

【瀬尾浩之】



6. 環境経営目標の実績と判定

環境経営目標に対する達成状況は以下の通りです。

【全 社】

※判定は、○.. 達成 ×.. 未達

環境経営目標	2018年度 (基準値)	2020年度 目標値	2020年度	
			年合計	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 1,692,400 kg-CO2	-	目標値	1,658,549
			実績値	1,371,080
			判 定	○
	燃料消費量の削減 ①ガソリンの削減 25,159 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	24,656.00
			実績値	19,584.83
			判 定	○
	②軽油の削減 612,015 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	599,775.00
			実績値	489,743.41
			判 定	○
	事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減 ③電気使用量 111,863 kWh 実施責任者：各拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	109,626
			実績値	131,384
			判 定	×
2. 総排水量の削減	排水量 222 m ³ 実施責任者：各拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	217.56
			実績値	254.00
			判 定	×
	総廃棄物量 161.328 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	158.101
			実績値	108.935
			判 定	○
	グリーン購入品目の積極購入・使用 グリーン購入品目の積極購入使用 実施責任者：拠点長・購入担当	積極的に購入・使用	目標値	積極購入使用
			実績値	積極購入使用
			判 定	○
	2018年度 10.02km/L 基準データ 5.10km/L 実施責任者：本社除く拠点長	10.22km/L 5.20km/L 基準より2%向上	ガソリン	10.78
			軽 油	5.51
			判 定	○/○

○全項目（都市ガスを含む）の二酸化炭素排出量 1,371,227 kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の CO2 排出係数（2017 年度調整後排出係数）

0.463kg-CO2/kWh としています。

※総排水量と水使用量について、南支店（南営業所）の水道はすべて井戸水で、使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店（福岡営業所、東倉庫）の値としています。また、福岡営業所は洗車場と倉庫内トイレが井戸水を使用していますが、井戸水使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

【本社・福岡支店】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境経営目標	2018年度 (基準値)	2020年度 目標値	2020年度	
			年合計	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 918,528 kg-CO2	-	目標値	900,155
			実績値	761,674
			判定	○
	燃料消費量の削減	基準年度比 2%削減	目標値	13,645.00
			実績値	11,589.02
			判定	○
			目標値	320,660.00
			実績値	265,574.54
			判定	○
	事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減	基準年度比 2%削減	目標値	82,127
			実績値	104,385
			判定	×
			目標値	1,274.00
			実績値	512.00
			判定	○
2. 総排水量の削減	排水量 222 m ³ 実施責任者：各拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	217.56
			実績値	254.00
			判定	×
3. 廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 62.883 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	61.626
			実績値	18.634
			判定	○
4. ダンボール使用量の削減	総使用量 17.44 トン 実施責任者：福岡拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	17.091
			実績値	15.200
			判定	○
5. 低公害車の100%導入の維持	低公害車導入率(%) 実施責任者：本社購入担当者	100%維持	目標値	100%維持
			実績値	100%維持
			判定	○
6. ガソリン・軽油の燃費向上	2018年度 8.36km/L	8.53km/L	ガソリン	9.52
	基準データ 5.58km/L	5.69km/L	軽油	5.97
	実施責任者：本社除く拠点長	基準より2%向上	判定	○/○

○全項目（都市ガスを含む）の二酸化炭素排出量 761,821kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（2017年度調整後排出係数）0.463kg-CO2/kWhとしています。

【南支店】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境経営目標	2018年度 (基準値)	2020年度 目標値	2020年度	
			年合計	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 773,872 kg-CO2	-	目標値	758,395
			実績値	609,407
			判定	○
	燃料消費量の削減 ①ガソリンの削減 11,236 L 実施責任者：本社除く拠点長 ②軽油の削減 284,811 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	11,011.00
			実績値	7,995.81
			判定	○
			目標値	279,115.00
			実績値	224,168.87
			判定	○
	事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減 ③電気使用量 28,060 kWh 実施責任者：各拠点長 ④灯油の削減 0 L 実施責任者：各拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	27,500
			実績値	26,999
			判定	○
			目標値	0.00
			実績値	0.00
			判定	○
2. 総排水量の削減	排水量 0 m ³ 実施責任者：各拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	0.00
			実績値	0.00
			判定	
3. 廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 98.45 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 2%削減	目標値	96.480
			実績値	90.301
			判定	○
4. エコ・地域活動項目の継続と発展	エコ・地域活動項目の継続と発展 項目の継続 実施責任者：南営業所拠点長	活動項目の継続	目標値	継続と発展
			実績値	継続と発展
			判定	○
5. ガソリン・軽油の燃費向上	2018年度 11.91km/L 基準データ 4.55km/L 実施責任者：本社除く拠点長	12.15km/L	ガソリン	12.74
		4.64km/L	軽油	4.98
		基準より2%向上	判定	○/○

○全項目（都市ガスを含む）の二酸化炭素排出量 609,407kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（2017年度調整後排出係数）0.463kg-CO2/kWhとしています。

【車種ごとの燃費】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境経営目標	2018年度 (基準値)	2020年度 目標値	2020年度	
			年合計	
【本社・福岡支店】 ガソリンの燃費向上	ガソリン・営業車 10.03 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%向上	目標値	10.23
			実績値	10.00
			判定	×
	ガソリン・自家用車 8.02 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%向上	目標値	8.18
			実績値	9.40
			判定	○
【本社・福岡支店】 軽油の燃費向上	軽油・大型車 3.25 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%向上	目標値	3.31
			実績値	3.32
			判定	○
	軽油・中小型車 6.19 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%向上	目標値	6.31
			実績値	6.64
			判定	○
【南支店】 ガソリンの燃費向上	ガソリン・営業車 11.59 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%向上	目標値	11.82
			実績値	12.61
			判定	○
	ガソリン・自家用車 13.65 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%向上	目標値	13.92
			実績値	13.54
			判定	×
【南支店】 軽油の燃費向上	軽油・大型車 3.00 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%向上	目標値	3.06
			実績値	4.10
			判定	○
	軽油・中小型車 7.04 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%向上	目標値	7.18
			実績値	7.46
			判定	○
	軽油・冷凍冷蔵車 3.38 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 2%向上	目標値	3.45
			実績値	3.71
			判定	○

(1) 燃料消費量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

(判定 ガソリン/軽油【全社：○/○、本社・福岡支店：○/○、南支店：○/○】)

目標値について、燃料消費量は全社、本社・福岡支店、南支店全てにおいて、ガソリン・軽油共に目標を達成しています。今年度は、2018年度を基準とした3カ年の目標値を設定した2年目になります。

本社・福岡支店、南支店において、ガソリン・軽油の消費量がともに減少（燃料消費量の目標を達成した）しました。車両台数は、基準年度の2018年度が88台、今年度は86台と減少となっています。また、従業員数も、基準年度の2018年度は109名、今年度は96名と13名の減少となっています。ガソリン・軽油消費量の減少は、このような企業規模の縮小によるものもありますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による売上の減少が大きな要素とみています。また、事項で記述しますが、燃費向上による燃料消費量の削減も大きな要素とみています。

自社車両による運送の運賃売上金額とその車両の走行距離を把握しなければなりません、当社の受注形態が複雑（1受注で複数車両使用や複数車両使用で1受注等）なので、簡単に把握するのは難しいと考えています。受注・売上とそれにかかったコストを把握できるように、業務の流れや仕組みを分析・調査し、売上金額に対するコストという観点で燃料消費量を捉えることが出来るような方法を模索してまいります。

(2) ガソリン・軽油の燃費向上【全社、本社・福岡支店、南支店】

(判定 ガソリン/軽油【全社：○/○、本社・福岡支店：○/○、南支店：○/○】)

拠点別の目標値について、全社、本社・福岡支店、南支店のガソリン及び軽油の総ての目標を達成しました。

車種毎の燃費目標値について、本社・福岡支店のガソリン営業車、南支店のガソリン自家用車が目標を達成できませんでした。車種別の判定と昨年度との比較は下表のとおりです。

			昨年度	今年度	昨年度	判定
本社・福岡支店	ガソリン	営業車	10.93 km/L	10.00 km/L	↓	×
		自家用車	9.22 km/L	9.40 km/L	↑	○
	軽油	大型車	3.35 km/L	3.32 km/L	↓	○
		中小型車	6.25 km/L	6.64 km/L	↑	○
		コンビニ車	6.27 km/L	6.44 km/L	↑	○
南支店	ガソリン	営業車	11.33 km/L	12.61 km/L	↑	○
		自家用車	10.30 km/L	13.54 km/L	↑	×
	軽油	大型車	3.19 km/L	4.10 km/L	↑	○
		中小型車	7.20 km/L	7.46 km/L	↑	○
		冷凍冷蔵車	3.71 km/L	3.71 km/L	→	○

本社・福岡支店のガソリン営業車、軽油大型車以外は、昨年度より燃費が向上しています。南支店の冷凍冷蔵車は横ばいですが、今年度の目標を達成していますので昨年度から引き続き燃費は向上しています。デジタコによる適切な運転指導や燃費向上キャンペーンの効果が現れています。

同じ車種の燃費は南支店の方が良い値となっています。運送業務内容に違いがあるため単純な比較は出来ませんが、本社・福岡支店の軽油中小型車とコンビニ車は、南支店の軽油中小型車の燃費まで向上出来るとみています。南支店のトラック運転者は以前から省エネ運転の意識が高く、これが続くような指導を実施します。車種ごとに的確な指導方法を研究・実施し、ドライバーへの意識付けを行い、省エネ運転の指導を継続するよう努めます。

(3) 事務所及び作業場の電気使用量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

(判定【全社：×，本社・福岡支店：×，南支店：○】)

南支店において目標を達成できました。全社及び本社・福岡支店は目標を達成できませんでした。福岡支店においては、昨年に引き続き倉庫内の電灯の切り忘れがないようより細かい指導や夏期・冬期のエアコン使用時の温度管理の指導をしましたが、電気使用量の増加を補うことは出来ませんでした。また、使用量の急な増加は、福岡支店内の東倉庫において、お客様が倉庫内でエアコンを使用するようになり、これが増加の要因です。

南支店は、夏場のグリーンカーテンに一定の効果があると思いますが、目標値が削減の限界に近づいているように感じます。

全社でみて、現状の節電方法では目標値達成が次第に難しくなっています。本社と福岡支店・東倉庫では、一部の事務所照明のLED化を実施します。その効果は次年度に現れると思います。各拠点の事務所や倉庫においてもさらに節電の意識向上を進めます。

(4) 事務所及び作業場の灯油使用量の削減【全社、本社・福岡支店（、南支店）】

(判定【全社：○，本社・福岡支店：○（、南支店：○）】)

灯油は本社と福岡営業所において、石油ストーブでの利用のみとなっています。

本社・福岡支店、南支店及び全社において目標を達成できました。昨年度から引き続き、本社・福岡支店では、石油ストーブよりエアコンの使用が多く灯油の使用量が減少しました。福岡支店は事務所と倉庫が密接しているため、なるべく事務所で火気を使用しないようにしています。

(5) 総排水量の削減【全社、本社・福岡支店（、南支店）】

(判定【全社：×，本社・福岡支店：×（、南支店：－）】)

今年度は目標を達成出来ませんでした。従業員皆さんに節水意識が定着したことは確信していますが、この節水意識だけでは削減の限界に達したとみています。

南支店の雨水利用のタンク設置及び洗車場の整備について、雨水利用のタンク設置は次年度2021年1月に終えており、タンクの雨水を洗車に利用できるよう洗車場の整備を行っています。早く利用出来るよう進めています。

洗車時間の管理は本社・福岡支店において引き続き行っています。

本社・福岡支店の今年度の合計洗車時間／台数は下記の通りでした。

2020年度 本社・福岡支店の合計洗車時間 82時間29分／370台（13分／台）

洗車時間の報告は自己申告のため、漏れなく洗車時間の報告があるよう洗車時間報告の徹底を指導します。洗車で使用する総排水量を洗車時間から推測出来るよう工夫します。

南支店の水道はすべて井戸水で使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店（福岡営業所、東倉庫）の値としています。また、福岡営業所は洗車場と倉庫内トイレが井戸水を使用していますが、井戸水使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

(6) 廃棄物総排出量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

(判定【全社：○，本社・福岡支店：○，南支店：○】)

全社、本社・福岡支店及び南支店において、目標を達成しました。

	本社・福岡支店	南支店	全社
2019年度排出量	50.563ト	92.740ト	143.304ト
2020年度排出量	18.634ト	90.301ト	108.935ト

本社・福岡支店においては、昨年度から引き続き、荷主様のご協力のもとに、リサイクル業者の引き取りや産廃業者が直接収集を行うなどをさらに強化し、昨年度よりさらに廃棄物総排出量の削減ができました。南支店も昨年度から引き続き、荷主様のご協力がありました。

次年度以降も荷主様の廃棄物総排出量も削減出来るよう荷主様を交えて提案や工夫を考えて進めてまいります。廃棄物の分別やリサイクル、お客様・荷主様のご協力をお願いし、廃棄物排出量を減少させるよう努力します。

(7) グリーン購入使用品目の積極購入・使用【全社】(判定【全社：○】)

物品を購入又は使用する際、グリーン購入使用品目を優先して選択するよう従業員へお願いしました。エコマークに関心を持ってもらえるよう努めました。また、会社購入・使用に限らず個人で購入や使用する色々な物品もなるべくエコマーク付きにしてもらえるよう、お願いしました。

今後は、当社が購入使用する物品やサービスを製造販売する取引先の環境への取組を把握・評価し、評価に応じた購入使用とするようななどの手法を考えています。

(8) ダンボール使用量の削減【福岡支店】(判定【福岡支店：○】)

今年度は目標を達成できました。引越の繁忙期(3月、4月)に集中しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による売上の減少が大きな要因でした。これは、プラスチックダンボール、中古ダンボール使用量が共に激減している要因でもあると考えられます。

	プラスチックダンボール	中古ダンボール
2018年度	1, 046枚	7, 125枚
2019年度	650枚	5, 080枚
2020年度	15枚	2, 565枚

今後も中古ダンボールやプラスチックダンボールの利用を営業担当者からお客様へアピールするよう引き続き行ってまいります。また、引き続きダンボール以外の資材(テープ類や梱包材)の削減目標ができるよう検討します。

(9) 低公害車の100%導入の維持【本社】(判定【本社：○】)

今年度、1月2t平トラック(中古)1台と6月コンビニ用トラック(中古)1台、7月2t平トラック(新車)1台、11月コンビニ用トラック(新車)3台、12月2tトラック(新車)2台と10t冷凍車(中古)の購入がありました。新車購入は、低公害車の確認を行いました。

(10) エコ・地域活動項目の継続と発展【南支店】(判定【南支店：○】)

事務所横のグリーンカーテンは今年度で8年目となりました。今年度はアサガオを植えてみました。窓を覆うには少し足りないくらいに成長しました。夏場の事務所内の温度上昇抑止効果が感じられました。次年度も引き続き育てます。

地域活動項目として、11月7日(土)に当社本社近くの小学生を対象とし、「トラックで運ぶ」をテーマとした物流を身近に感じてもらう催しを開催しました。

営業所周辺の道路脇などを清掃する活動とともに、次年度以降も地域に密着した活動項目を色々探し、発展させてまいります。

7. 環境経営計画の取組に対する評価と今後の取組内容

■ 環境経営計画の取組に対する評価

E A-21 環境改善取組みは2011年1月から実施し、本レポートも10回目となりました。前年度、今年度と会社組織の変更もなく、安定した会社組織での取り組みとなりました。

今年度は、2018年度を基準値とした3カ年環境経営目標の2年目です。

ガソリン・軽油の燃費向上目標を車種（営業車、自家用車、大型車、中小型車、コンビニ車、冷凍冷蔵車）ごとに設定して2年目となりました。より細かい燃費の管理が出来るようになり、車種毎の傾向を把握し、燃費向上指導が効果的に行えるようになりました。燃費の向上は温室効果ガス排出量の削減となり、会社のコスト削減にもなります。

総排水量の削減は、今の環境経営計画の取組で限界に達したようにみえます。「節水」だけではこれ以上の削減は期待できないと思います。南支店の雨水利用のように、水の循環利用を考えなくてはなりません。

電気使用量の削減も総排水量の削減と同様、今の環境経営計画の取組で限界に達したようにみえます。本社・福岡支店及び東倉庫の照明の一部を、年が変わり2021年始めにLED化しました。LED化の効果は次年度に期待します。

燃料消費量は運送売上の増減、車輛所属の変更や車両台数の増減に影響されます。廃棄物排出量は、お取引先（荷主）様のご協力やエコロジー活動へのご理解に影響されます。このように環境経営目標値に対し、受注や売上高、作業量などの増減やその他外的要因による影響によって増減する実績値の評価をどのようにとらえるかを、前年度に引き続き会社経営の視点から検討・研究しています。

内部監査について、前年度に続き3回目を実施しました。前年度と同様に月次のチェックで使用しています「活動手順書兼拠点用内部監査チェックシート」の拠点用内部監査チェックシートに運行管理内部監査項目を追加して福岡支店と南支店相互に実施しました。監査はE A-21 専門として行うのではなく、現業業務（運行管理の一部）の内部監査を主とし、それにE A-21 の監査を織り込むような形で行いました。監査の進行はよりスムーズになりましたが、現業業務の監査は多少慣れが出始めているようにみえました。まだまだ監査人としての勉強会も兼ねており、これから監査内容・項目を整えていくとともに、監査人の教育、レベルアップを目指します。

前年度以前からマンネリ化が指摘されています環境活動の啓蒙指導（従業員の意識向上・理解）について、今年度は新たな手法や教材の開発・発見は出来ずそのままとなっています。引き続き新たな手法や教材の開発を行います。

グリーン購入使用品目増は、購入使用品目を1品目定める目標から、グリーン購入使用品目全般に対しその購入と使用を積極的に行う目標にしました。

エコ・地域活動項目の増は、地域活動項目を1項目ずつ追加する目標から、これまで実施しているエコ・地域活動項目を継続し新たに実施できる地域活動項目を模索する目標にしました。

地域活動項目として、当社本社近くの小学生を対象とし、「トラックで運ぶ」をテーマとした物流を身近に感じてもらう催しを開催しました。

今年度は、2017年版ガイドラインの適用となります。2017年版ガイドラインに適合するよう整備し、ガイドライン及び環境経営の視点からの見直しを行います。

■ 今後の取組内容

今年度は、2018年度を目標基準年度とした3カ年環境経営目標値を設定し、その2年目です。次年度は3カ年環境経営目標値の最終年度に当たり、新たな3カ年環境経営目標値を設定します。次年度は今年度の取組を維持継続し、新たな環境経営目標値を設定するに必要な要素を取り込んでまいります。

今年度の燃費向上のためのドライバーへの指導やキャンペーンを継続し、目標達成を出来るようドライバーへの意識付けも行うよう努めます。

燃料消費量は運送売上の増減、車輛所属の変更や車両台数の増減に影響されます。また、廃棄物排出量は、お取引先（荷主）様のご協力やエコロジー活動へのご理解に影響されます。このように環境活動目標値に対し、受注や売上高、作業量などの増減やその他外的要因による影響によって増減する実績値の評価をどのようにとらえるかを、会社経営の視点から引き続き検討・研究してまいります。

廃棄物排出量削減について、お取引先（荷主）様のご協力やエコロジー活動へのご理解を得られるよう努力します。福岡市の事業所ゴミ処理が2020年10月から、紙類の事業所ゴミの受け入れは一切受け付けなくなり、民間の古紙業者（産廃業者）へ処理を依頼することになりました。事務所から排出する紙類を分別（コピー用紙・雑紙・シュレッダーくず・燃えるゴミ）、引越の資材ゴミ、梱包材や事務所移転で排出されるゴミの紙類を分別する運用ルールを決め、実施しています。

南支店の雨水利用のタンクは2021年1月に設置しました。タンクの雨水を洗車に利用できるよう洗車場の整備を行っています。利用開始後は福岡支店と同様に洗車記録を取り、総排水量の削減に役立てます。

内部監査について、前年度の問題点と今年度実施した内部監査の内容を整理し、現業業務の内部監査とE A-21の監査項目・監査内容を整えて、更に充実した内部監査が実施できるよう進めてまいります。また、マンネリ化が指摘されています環境活動の啓蒙指導（従業員の意識向上・理解）は、新たな手法や教材の開発を引き続き行います。

E A-21の十分な運用ができるよう、今後も環境経営方針に基づき、当社の事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動に努めていく所存です。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

社内でのチェックリストを基に許可証・契約書・管理票・マニュアル・記録データ・その他帳票類等を点検、順守状況を確認したところ環境関連法規、事業に係わる法規いずれも遵守していることを確認しました。

《当社の関連する主な法規制》

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法	・廃棄物の削減 ・廃棄物の適正処置の確保 ・産業廃棄物保管基準遵守 ・産業廃棄物処理委託基準の遵守 ・産業廃棄物管理票の管理義務 ・産業廃棄物収集運搬業者	遵守確認済
水質汚濁防止法	・排水への油分混入の防止	遵守確認済
自動車リサイクル法	・リサイクル費用の預託 ・使用済み自動車を引取業者へ引き渡す	遵守確認済
消防法	・消防設備の維持管理	遵守確認済
貨物自動車運送事業法	・事業用トラック使用の為の遵守	遵守確認済
道路運送車両法 道路交通法	・所有車両の法定点検、日常管理 ・法定速度遵守	遵守確認済
倉庫業法	・営業用倉庫を営む為の遵守	遵守確認済

■ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

当社は関連法規制及び同意事項の遵守状況確認を毎年1回実施しており、その結果、違反・訴訟及び地域住民等からのクレームはありませんでした。又、今後も環境関連法規と社会的要求事項を進取し適時改善を行い更なる環境保全活動の制度の向上を図ってまいります。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

「ガソリン・軽油の燃費向上」は、前年度から目標管理を車種ごとに細かくしました。ガソリンを、営業車と自家用車、軽油を、大型車・中小型車・コンビニ配送車・冷凍冷蔵車の6種類にしました。今年度の結果は、本社・福岡支店グループのガソリン営業車と南支店グループのガソリン自家用車が目標を達成できませんでした。これ以外の総ての車種は目標を達成しました。本社・福岡支店グループのガソリン営業車は軽自動車1台です。目標値の設定が軽自動車にしては甘く、これを達成できなかったのは運転に問題があると思えません。南支店グループのガソリン自家用車はライトバンが2台です。この車種の目標値は適当であると思います。もう少し上手な運転を心がけて欲しいです。目標標準年度のから設定される目標値とは別に、会社の経営方針から算出した車種ごとの燃費を目標値に指定した方がコストとしてみるときに判断しやすくなります。これは前年度ここで発信し今年度実施されませんでした。次年度はコストの目安としての値を設定したいと思います。車両の燃費は会社の利益に直接影響します。燃費向上と実車効率の向上を常に意識して業務を遂行していただきたい。

「電気使用量の削減」について、今の活動手順ではほぼ限界になっています。次年度は設備の更新をおこないます。本社、福岡支店及び東倉庫の照明のLED化です。頻繁に使用する場所の設備を更新し、コストを抑えるようにしました。設備の更新による削減はそれ以上望めません。設備の更新ではない今までとは違う節電手法を探さねばなりません。

福岡支店の事務所は倉庫と隣り合わせなので、火災予防のため事務所内なるべく火気を使用しないように指導しています。暖房は灯油から電気へ移行しています。

「総排水量の削減」について、水を節約するだけの活動手順では削減の限界になりました。電気使用量とは違い、新たな手法はなかなか見つからないと思います。引き続き今の活動手順を実行してまいります。

南支店の雨水利用のためのタンクは次年度に設置し、使用できるよう洗車場を整備するように指示しました。南支店の車両が美しくなることを期待します。

「廃棄物排出量の削減」の課題は、当社だけで解決するものではなくお客様・荷主様へお願いやご相談し、お互いに理解し協力しなければなりません。社会や地域全体で情報交換できる場所の提供を公共の機関から発信して欲しいと考えます。

内部監査について、「まずやってみよう」から始めて3回目はずいぶんと慣れたようでした。運行管理業務については順調に行えたようです。EA-21の監査項目については、まだ勉強することが多々ありそうです。監査項目・実施内容を更にレベルアップするよう期待しています。

「グリーン購入使用品目の積極購入」は、エコマーク付き商品の購入・使用ではなく、当社が購入使用する物品やサービスを製造販売する取引先の環境への取組を把握し、それを評価出来るよう進めます。

教育の内容や指導事項のマネリ化の解消は、まだ解決策が出ていません。新しいガイドラインの適用により今一度取り組みを考えてまいります。

問題点や予防処置に敏感になってほしい。特に拠点長や管理者が率先して問題点の是正や予防処置を行い、業務改善を進めることを理解し実践してもらいたい。

今年度は、2017年版ガイドラインに適合するよう見直し・整備しました。また、文書・記録をデジタル化し、紙ベースの保存を廃止しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により売上の減少、人員確保の困難などがありました。前年度もここで発信しましたが、企業の危機管理を知り、緊急事態に備えて平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための事業継続計画（BCP）の策定を進めます。

新しいガイドラインに沿った環境経営の中で経営の課題とチャンスを掴み、当社自ら販売・提供するサービスを考え、地域活動への参加・協力を推し進めてまいります。

以 上